高度の体重減少を来たした統合失調症６例について

東京武蔵野病院　栄養サポートチーム　◎小池（こいけ）　早苗（さなえ）（管理栄養士）
泉　正樹（内科医師）
斎藤　徹（歯科口腔外科医師）
大圃　篤（作業療法士）
小坂井ひとみ（看護師）
山根　貴子（看護師）
石川　あけみ（看護師）
岩崎　秀之（管理栄養士）
大泉　志織（管理栄養士）
川添　真佑子（管理栄養士）
小澤　照史（薬剤師）

１．はじめに

統合失調症では抗精神病薬の副作用により体重増加を来たす場合のあることが知られている。しかし一方で、体重が減少する症例が近年報告されている。本研究では、栄養管理を行っているにもかかわらず、体重が高度に減少（BMI：肥満係数が 16.0 未満）した統合失調症症例６例の臨床病態を報告する。

２．対象

平成 21 年５月末現在の当院の入院患者で、BMI の評価が可能であった症例は 587 例であり、うち、16.0 未満の症例は 47 例（8.0%）であった。これらの症例中、１年以上の体重評価が可能で、かつ、標準体重（BMI：22.0）に相当する必要カロリー以上を摂取していたにもかかわらず、体重が１年以内に高度に減少した統合失調症症例６例を対象とした。男性１例、女性５例で平均年齢は 71.8 歳（62 ～ 79 歳）であり、日常生活自立度は、J2：１例、A1：１例、A2：１例、B2：３例であった。

主な合併疾患は、糖尿病：２例、パーキンソン病：３例、乳癌術後：１例であったが、病状は安定していた。また、５月末日現在、５例が非定型抗精神病薬を服用していた。

３．結果

平成 21 年５月末の BMI と ALB の平均はそれぞれ 14.6（13.7 ～ 15.6）、3.6mg/dl（3.2 ～ 4.1mg/dl）であった。1.5 ～ 2 年前の体重の平均は 40.4kg（32.2 ～ 61.3kg）であり、本年５月末の平均体重は 32.2kg（26.9 ～ 37.1kg）であった。体重減少の平均は 8.3kg（1.3 ～ 25.3kg）であった。

標準体重（BMI：22.0）に換算した必要カロリーの平均は 1,308kcal（1,148 ～ 1,542kcal）であり、摂取していたカロリーの平均は 1,517kcal（1,400 ～ 1,700kcal）であった。全ての症例で必要カロリーより 58 ～ 327kcal 多く摂取していた。

４．総括

近年、統合失調症症例で必要なカロリーを摂取しているにもかかわらず、体重が減少する場合のあることが報告されている。今回報告した６症例も１～２年の間に高度の体重減少を来たしたが、重篤な身体合併症は認められなかった。また、日常生活自立度も B2 以上であり、ADL の著明な低下もなかった。

体重減少は生体の予備能力を低下させ、特に高齢者にとっては感染症や褥瘡などの原因にもなり、また、ADL 低下の要因にもなる。高齢統合失調症症例における体重減少の原因は不明であるが、長期にわたる抗精神病薬の投与による消化管の機能低下なども原因の一つと推測される。体重低下に対する対応として、当院では可能な症例については摂取カロリーを増やすなどの対策を講じている。